

読者の声



地震と空襲と  
食糧難で生き地獄

天白区八事山年輪会第一クラブ  
水谷 勝彦

昭和19年8月、米軍の都市への空襲懸念が濃厚となり、当時小学5年生だった私は三重県に集団疎開した。同年12月マグニチュード7.9の東南海地震が発生し、尾鷲、熊野、志摩の沿岸に7〜8メートルの大津波が襲い多数の家屋が壊滅し数千人の死者が出た。疎開先の古い旅館跡宿舎は大揺れしたが、辛うじて倒壊は免れ本当に怖かった。

ところが1カ月後の昭和20年1月に、またもや震度6強の三河地震が発生、多数の家屋倒壊と数千人が犠牲になった。2カ月続けて巨大地震が起きたのは驚きである。なおこの地域の地震は、過去100年ほどの周期で再発しており、今般重注意の時期にきている。その頃から米軍の都市部への空襲が本格化し、週1〜2度あった。犠牲者は名古屋で9000人弱にも達した。わが家は2度も焼失し、全財産を無くした。

苦難は重なるもので、戦時中の食糧難が深刻なところへ台風来襲で米の収穫が大幅減収して飢餓状態でもあり、正に生き地獄で昭和天皇のご聖断で終戦となった。

テーマ投稿 4月号のテーマ

「楽しいおさんぽ」

楽しいおさんぽ

緑区熊の前寿クラブ  
高際 徳雄

私の住む緑区熊の前学区は、散歩には格好の場所がいくつもあ。町を東西に流れる扇川はその両側に遊歩道が整備されている。桜並木は春には花を咲かせ、行きかう人々を楽しませる。南には、

楽しいお散歩

守山区ひまわり会  
安藤 幸子

「万歩計さん、今日もお世話になります」と言いながら腰に付けます。目的は1日5000歩です。朝、庭に出て野鳥に餌をあげる。といっぱい集まってくれます。餌は前日の仏さまのおさりのオボ

楽しいおさんぽ

天白区平成東クラブ  
杉浦 幸一

もともと歩くことが好きで、土・日・祝日にはウォーキング大会に出掛けていました。職を離れた今は、毎朝天白川を歩いていきます。70代は五時起きで、上流に居るカワセミを見つるのを楽しみにしています。流れには、白鷺・鴨等がいます。時には群れをなして飛んでいます。カルガモの親子

みどりや丘公園があり、四季折々の木々と草花が心を癒す。ここは市管理の墓地公園なのだ。大空には数種の野鳥も飛び交う。北には古くから熊野神社が鎮座し、町を高台から見守る。こここの境内に登り降りするだけでかなりの運動量である。

私の散歩は、これらの場所を織り混ぜながら1日1万歩を目安に歩く。勤めの時代は通勤と仕事の中でかなりの量を歩いていた。今

クサマ、野鳥にあげると良いと何かで読みました。それからお花達にも、「皆さん今日も元気で！」と声を掛けます。

そして午後、自転車でスーパーへ。なるべく多くの物をみて歩き、夕食の献立を決めます。もちろんこれも万歩計に計上されます。夕方、家を中心に周囲を2回ほど(2500歩程度)歩きます。ただ出掛けた日、地域のグラウンド・ゴルフ等で歩いた時は加減し

の姿は、見るに付け癒されます。空には雲、月、雨上がりの虹もきれいに見られることがあります。

傘寿を越してからは、若い頃のようにには歩けません。5時起きが30分、40分と遅くなってきました。それでも6時半からのラジオ体操には遅れずに頑張っています。行き交う人と挨拶を交わし、自然と空気に触れ仲間と連れ立って帰ってくるのは楽しいものです。これからもできる限り続けたいと思っています。

は自ら心掛けないと運動不足となる。ウエストが太くなり、昔のズボンがはけなくなる。2W (weight & walking) と名付け日々の景色を眺めながら一歩一歩と前へ行く。



日によつては、5000歩を超える時もありますが、(多くは超えています)。100〜150歩くらい残っていることもたまにはあります。そんな時はリビング、キッチンを歩いてプラス。

最後に家計簿に記入する時「やったあ！明日も頑張るぞ！」今の私にはこれくらいが一番適していると思っています。皆さまはいかがですか？

楽しいお散歩

熱田区あすなる老人会  
伊東 正子

散歩に出掛ける前、見上げる時計の針よし、わかりやすい時間だと足早に門扉を出る。とっぷり暮れた冬の日の舗道。会社帰りの人々をやりすし、足早に往復すること約40分。「今日も歩いてきたよー」と息子夫婦に呼びかける。

楽しいおさんぽ

南区星宮クラブ  
平田 澄子

毎日、午前5時起床。さあ、朝の散歩。天白川の土手を「今日も元気」と言いつて歩き出します。いつも会う人に「おはよう」とにっこり。会えて良かったね。またね。マラソンのお兄さんも「おはよう」ガンバッテね。ワンちゃんも「おはよう」喜んで飛びついてきます。みんな元気で幸せいっぱいです。

長い間、病気をしていました。お陰さまで元気になれ、朝から次から次へとお話しでき、楽しい1日の始まりです。今日も、お月さまがきれいでした。

コロナ禍でのつながり

「読者のページ」ではテーマも設けています。次号のテーマは「コロナ禍でのつながり」です。コロナ禍の下、以前のような会員同士の集まりや見守り活動における訪問などがしにくくなっていますが、「新しいつながり方」を考えて実践している方(これから実践しようとしている方)はいませんか? コロナに負けない「集まれなくてもつながる方法」を教えてください。



読者の声

なつかしの歌をいつも老人会のしめに歌っているのですが、新年会の集いでは、緊急事態宣言直前でしたので、新年のご挨拶と会の報告事項だけで、我慢の生活をしています。(緑区T)

「なごやかひろば」を楽しみに読ませていただいています。他区のクラブ便りや、スポーツの大会の写真などに、もしかして知っている人でも写っていないかと、天眼鏡片手に入ミからスミまで読み、文芸コーナーにも、もしかして知っている人いるかもと読みつづけています。(南区K)

昨年は新型コロナウイルスに振り回された年になり、みんなとも顔を見てのおしゃべりもできずに大変なウイルスさわぎで残念でした。新聞を届けてくれる役員さんとも挨拶を交わすこと無くて、早くおさましてほしいわ。(西区K)

毎回楽しみに読んでいます。皆さん、いろいろ活動されている様子がよくわかります。私は、このクラブ通信を読むのが好きです。短歌も一つ一つじっくりと読んで楽しんでいます。次号も今から楽しみです。(緑区K)

ステイホームのおかげで、今までより読書に費やす時間が増え、苦手な歴史物に挑戦し、新たな発見を毎日楽しんでおります。(瑞穂区W)